

# 「事業継続、三つの蓄積」

当イワテブライダルセンターグループは、お陰様をもちまして、平成25年に50周年を迎えることができました。そして今年で55周年となります。これもひとえに皆様方の長年にわたるご支援の賜物と心から感謝いたしております。

これまでを振り返り今思うことは、それほど苦難もなくやってこられた、ということ。それぞれの事業を始めたとき、仕事を通して良き方々に恵まれ、思い描く通りに事業を成長させることができました。それというのも、当時の仲間や友人たちがあつてこそのことです。「継続は力なり」という言葉がありますが、仕事に対する信念を貫き、三つの蓄積を基本として仕事を進めて参りました。

- 一、従業員の蓄積
  - 二、暖簾の蓄積
  - 三、資産の蓄積、です。
- 事業を継続していくには、常に地域、社会へ

の貢献を忘れないこと、身近な友人を大切にすること、そして出会う皆様に感謝することが大事だと考えています。

## 創業期

昭和30年、17歳で葛巻から盛岡に出て、住み込みで働き、18歳で車の免許を取得し、20歳のときにローンで車を買って食料品・雑穀を取り扱う「とりい商店」として行商をはじめました。

その後、23歳の時に10所帯のアパートを建築し、26歳の時に美容師と結婚して「とりい美容室」を開店、そこで化粧品も販売しました。地域的に見ても、美容室を経営し化粧品を売るということは容易ではありませんでした。そこで、大きな会社に行き、昼休みに商品を並べて、女性社員に化粧品を試してもらい販売するという出張販売を行いました。



株式会社イワテブライダルセンター  
(盛岡市)  
取締役会長

鳥居 清五郎

昭和42年には、盛岡、八戸で美容器具・美容用品を販売する「イワテ美容商事」を設立。45年1月と3月には間屋と一緒にアメリカに渡り、化粧品メーカー「シーブリーズ」の会社を訪問しました。そして日本で初めてシーブリーズの商品を販売するに至りました。

## ブライダル設立

その後、イワテブライダルセンターを昭和56年に設立しましたが、当時の結婚式は現在とは異なり、互助会というものがあつて大きな力を持ち、ホテルではなく会館を借りて行われていました。宣伝のため、会場を借りてブライダル衣裳の展示会を開催し、訪れたお客様にスタンブカードを渡し、後日それを持って来店すると割引をするといった工夫も行いました。

当時は50〜60代の着付けの先生方が花嫁のお支度をしていた時代で、当社の若いスタッフ

がベテランの先生方に引けを取らないように様々な研修を行いました。日本航空のスキューパーデスの方に講師を依頼して勉強会を開催したこともありました。また、その時見た日本航空の制服にヒントを得て、スタッフ用に制服を作りました。ホテルなどでも着物でお支度をしてきた時代に、制服を着用したスタッフがお支度をしたのは、盛岡では当社が初めてでした。

教育に力を入れ、制服という新しいスタイルを取り入れたスタッフたちは、年齢は若くても高い評価をいただくことが出来ました。

ブライダルの1年目の目標は30組と考えていましたが、社員たちは100組を目指していました。高い目標でしたがクリアし、翌年には200組をクリア。それほど社員が多かったわけではありませんでしたので、社員一人ひとりの頑張りが実を結んだ結果でした。

平成7年には、ブライダル事業を拡充するため桂由美先生と提携し、桂由美フランチャイズ盛岡を開店。前後して平成5年には宇都宮市にアップルブライダルプラザを開店し、県外にも進出。ホテル東日本宇都宮に衣裳室・美容室をオープンし、年間800〜1000組もの婚礼を成し遂げ、全国的に知名度を向上させました。

### グループ企業の店舗

株式会社イワテブライダルセンターは現在、本店のほか桂由美フランチャイズ盛岡、カワト

クブライダルサロン、北上・宮古・釜石・前沢の各店等、岩手県内に12店舗、県外には八戸、宇都宮に各1店舗を展開しております。

「とりの美容室」が前身の株式会社トリイは、トリイ中川店、カトレアホテル東日本店・大館店、ワンウィーク安庭店・球場店・紫波店の6店舗。

株式会社イワテ美容商事は、盛岡と仙台に拠点を置いています。

多くの店舗を置き、地域ごとのきめ細やかなサービスを心掛けています。



50周年を祝い集まった当社グループの社員とともに

### 震災

東日本大震災の折には、宮古店と大船渡店が甚大な被害を受けました。幸い社員には人的被害はありませんでしたが、得意先までを入れると大変な被害でした。

宮古店は壊滅的な被害を受けましたが、とにかく早急に復旧させることを目指しましたが、泥をかきだし、丁寧に掃除をし、お客様を迎え入れる準備を整えて店を再開させたのは震災から2か月後の平成23年5月で、地域でも最も早い時期でした。というのも、宮古店は商店街の入り口に位置していたので、店を復旧させることが地域の希望や活力になると考えたからです。

### 今後について

現在では、結婚式をする人も少なくなり、業界も低迷しておりますが、結婚式をしようと思う人が増えるように、自治体や地域社会が一体となって社会に働きかけていくことが必要です。

結婚式は家族や親戚などへのお披露目の機会ですし、周囲からの温かい祝福を受けた新たな人生の門出は、安心して産み育てることに繋がります。七五三、成人式は多くの方が地元でお祝いをするように、結婚式もそうあってほしいものです。そのために、当社美容室、美容商事、ブライダルが、県内の美容・婚礼業界に少しでも貢献できる会社になるよう、今後も尽していきたいと思えます。